

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200917		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホーム小松原	ユニット名	1号館
所在地	都城市小松原町1161-3		
自己評価作成日	平成26年4月23日	評価結果市町村受理日	平成26年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4570200917-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑い声が外に響き渡るように、職員も楽しみながら寄り添う事で、押し付けや恩着せがましい介護にならないよう心掛けている。食事では献立を職員がたて、手作りにしている事で利用される皆様の「おいしい！」と満足して頂けている声が多く聞かれている。また、好みの物を出し易く、個々で好まない物が出る際には個別に品を変更する等、食べる事の楽しみを持ち続けられるよう、柔軟な対応もしている。食事やおやつ時は、職員も一緒になって同じ物を、同じテーブルについて摂る事で、温かい雰囲気の中で皆で食事を楽しめるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの廊下の壁には、大きな模造紙に誰にでも読みやすくわかりやすいように、手順を箇条書にした緊急避難マニュアルが掲示してある。職員は、利用者が年賀状を出すための支援や利用者の笑顔の写真を掲載したホーム便りを遠方の家族、旧友にも届けるなど、利用者と家族や大切な人との関係をつなぐ支援を行っている。運営者は、利用者が食事を楽しむために、希望者には週3回、夕食時に梅酒を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作り上げた理念を事業所内に掲げ、日々ご利用者が地域社会に身を置きながら、職員と共に楽しみ、喜び、悲しみを分かち合える関係作りに努めている。また、理念を踏まえた上で、個人目標を定期的に設定し、貼り出す事で、自身の対応や技術を見直す機会を持つ事が出来ている。	利用者一人ひとりの生き方を大切にされた地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域生活の継続をうたった理念になっている。管理者・職員は、話し合いの機会を持ち、言葉掛け、態度、記録など、日々のサービス場面において理念が実践に生かされるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへの参加や近隣の店の利用、保育園児とのふれあい、ボランティアさんの来訪等、地域と繋がりを持ち続けられるよう支援している。	地区公民館長から情報をもらい、地域のふれあい会場へ出掛けたり、保育園児との交流、日本舞踊やハーモニカ演奏ボランティアが来訪するなど、地域との交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ向けた情報発信は、運営推進会議以外では特に行ってない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、外部評価の意義や結果を議題として取り上げ、サービスの質の向上に努めている。地域の代表の方等の参加協力も得られている。H25年度は、開催回数が4回と少ない事から、今後、奇数月での開催を計画し、規定回数の開催を行う。	会議では、ホームからの報告とともに参加メンバーから、利用者に対する職員の声掛けの仕方など、質問・意見・要望を受け、双方向的な会議になるよう配慮している。平成25年度の開催は4回に留まっている。	運営推進会議は、ホームが地域の理解と支援を得るための貴重な機会として、メンバーに地域密着型サービスの知見者を加えるなど、2か月に1回以上開催されるよう、更なる取組を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に、市の担当の方より意見やアドバイスを受けており、ホームの活動状況も伝えている。	市担当者とは運営推進会議だけでなく、事故報告書提出時にも助言をもらったり、日頃から気軽に相談したり、情報を共有できるよう連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「虐待防止法・身体拘束等の排除」に関するマニュアルがあり、理解した上で職員が互いに注意喚起し合いながら、介護に臨んでいる。特に、日常発生し易い言葉での拘束を出来るだけ減らせるよう、協力し合っている。	管理者・職員は、身体拘束によって利用者が受ける弊害について理解している。利用者一人ひとりの外出傾向を把握し、日中は施錠しないケアを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現時点で勉強会等、学ぶ機会を作る事が出来ていないが、今後開催していきたいと考えている。日常的に職員同士で対応に関して、互いに客観的に見直し、指摘し合うように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H25年度の運営推進会議にて議題に取り上げ、資料で職員間の情報共有は行ったが、活用する為には再度職員への勉強会を要する為、今後実施していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、お互いにしっかりと話をする事で理解、納得した上での契約締結、解約を図っている。改定等は都度文書にて郵送、説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情処理担当者を置いており、研修会への参加もある。ご家族へ向け、ホーム便りを発行した事により、以前よりホームでの状況が分かり易く、意見・要望も出し易い状況ではあると考えられるが、具体的な要望は現時点では出ていない。		年4回、ホーム便りを発行し、利用者の日々の様子や職員紹介を写真入りで掲載して家族に届けている。家族の来訪時には、何でも言ってもらえるよう雰囲気作りに留意している。家族から得られた職員の言葉遣いや利用者の着衣に対する意見・要望を検討し、質の向上に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者(管理者)が常に職員会議に出席しているため、意見や提案等その場で検討、意見交換し易く、可能なことに関しては柔軟に対応している。		運営者、管理者は、月1回行われる職員会で意見や要望を出しやすい雰囲気作りに心掛けている。うがいが出来ない利用者には、口腔用のウエットティッシュの利用を提案したことで、口腔ケアがスムーズに行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常勤職員や非常勤職員を十分に配置し、職員が心身共に余裕を持って勤務に当たる事の出来るよう、配慮している。また、時間内に仕事が終わるよう、働き易い環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や力量に合った研修参加の機会を設けている。また、希望する研修がある場合は、県外であっても勤務に支障がない限り受講出来るようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都城市内のグループホーム定例会があり、意見交換や情報交換の場に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所決定時にご本人の現状と、要望等を把握し、計画を作成。入所初期にご本人と多くコミュニケーションを取り、情報を引き出すと共に、他者とのコミュニケーションの仲介、ホームの一員としての居場所作りに尽力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から入所後も、対話にてご家族の要望、意見を聞き、互いに相談し合い、チームとしてご利用者を支えていけるよう、来苑時の雑談から情報交換まで、多くのコミュニケーションを取るよう心掛け、信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より聞き取りをしっかりと行い、ご利用者の現状を正確に把握する事で、必要なサービスの利用が出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は押し付け、恩着せがましい介護にならないよう、自身の目線の高さや表情、仕草に気を付け、ご利用者の人生経験と、知識の豊富さに敬意を払い、互いに支えあう関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時、近況報告を行い、意見や要望を介護計画へと活かしている。また、普段よりコミュニケーションを多く取る事で、ご利用者に関する課題で、職員だけでは良い結果に向かわない場合には、ご家族の協力を得る事が出来ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、墓参りに行かれる事もある。また、旧友や遠方のご家族へ宛て、写真付きで賀状や手紙を送る支援もしており、返信が来る等、ご本人はもちろんお相手も喜ばれている。	家族の協力を得て、墓参りやなじみの美容院へ出向いたり、六月灯で金魚すくい、燈籠奉納、ふれあい祭りに参加し、知人との出会いなど、一人ひとりの生活習慣や継続的な交流を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて職員が仲介し、穏やかなコミュニケーションを取る事が出来るように支援している。また、レクリエーションでは、一致団結して参加出来るゲームを計画し、仲間意識を持つ事へ繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに、サービス利用終了後も継続的な関わりを必要としたケースは無いが、ご本人やご家族からの相談があったり、必要である場合は対応する準備はある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない言動の中にこそ、その方の意思が隠れている事を念頭に置き、あらゆる可能性を発想する事で、言葉だけでは伝わり辛い思いや意向を汲み取る事が出来るよう、努めている。	日々の関わりの中で声を掛け、言葉や表情、態度等から把握している。難聴の利用者には耳元で優しく声をかけたり、時には利用者になじみの地域言葉を使うなど工夫をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報と共に、ご本人からたくさん情報を引き出し、職員間で共有する事で、今後の活動に活かせるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月毎にモニタリングを実施する事で、状態の変化を迅速に把握する事が出来るよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者を担当制で振り分ける事で、職員が責任を持ち、一歩踏み込んでケアへのアイデアを出したり、ご利用者の状態、意向の把握に取り組む。そこに、ご家族や他職員の意見等を組み込む事で、現状に即した計画を立てる事が出来ている。	日頃の関わりの中で、本人や家族の意見を聴き、職員が意見を出し合って介護計画を作成している。3か月、6か月ごとに、随時に状況、効果などの評価に基づいて、計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別に付け、気になる点や変化を要する場合には申し送りノートにて周知、意見を求めたり、情報共有を図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズが変化するに伴い、ご家族の意向も取り入れながら協力体制を整え、ご本人が必要としているサービスを受けられるように取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんに来て頂いたり、夏祭り等に参加し、地域社会と交流を持ち続ける事が出来るよう努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族が希望する場合は、かかりつけ医を受診し続ける事が出来るよう支援し、自苑と医師、看護師間の情報共有に努めている。	本人・家族が希望するかかりつけ医、医療機関に受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に医療機関がある為、随時報告、相談出来る状況。必要時迅速に対応してもらう事が可能である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至った場合、早期退院に向けて文書や口頭での情報交換、落ち着いて治療に専念できるように環境への配慮、工夫をするなど医療機関とのコミュニケーションを取りながら、協力体制が取れるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として、原則、終末期ケアは行わない事を説明しているが、ご本人、ご家族の意向を踏まえた上で協力医と連携を取りながら、状況に応じて対応している。	ホームは、重度化・終末期の対応方針を定め、説明している。本人・家族の意向を踏まえ、状況の変化に応じて協力医と連携を取りながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し勉強会の開催もあったが、訓練まではできておらず、今後実施出来るよう努めたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の立会いでの訓練も含め、定期的に避難訓練を行っている。備蓄もしており、地域との協力体制も改めて構築していく予定。	マニュアルを整備している。2か月に1回、同敷地内の看護職員との合同自主避難訓練及び年1回、消防署員立会いの下、避難誘導、消火器の使い方などを定期的に行っている。地区消防団員の参加、協力が得られる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を忘れずに、言葉掛けや対応を心掛けている。居室へ入室する際には、ノックや断りの言葉を伝える等、プライバシーの保護にも配慮している。		職員は、利用者を尊重した呼び方をしており、スピーチロックは見られない。利用者の居室に入る時は、声を掛けたり、ドアをノックするなど、本人の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、決断が困難な場合はご本人を主として、選択肢を提案する等、出来る限り自己決定が出来るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、ご本人の希望に添えるよう心掛けている。団体での活動が苦手な方には、得意なおやつ作り等の個人レクを取り入れたりと、ご本人の意思を確認しながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己にて身支度の出来る方は、見守りのみを行い、介助の必要な方も、ご本人の意思や好みを配慮し、選択肢の提示等の支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の意欲、体調、能力に応じて食材切りや自己の箸の準備、食器拭き等を職員と共に、一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気ですべての事を出来ている。		旬の食材や新鮮な物を取り入れ、利用者の好みや苦手な物を踏まえたメニューを工夫している。利用者と職員が、同じ食卓を囲み同じものを食べながら、和やかな雰囲気ですべてサポートしている。利用者の楽しみの1つに週3回、梅酒の提供がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化に応じてご飯量やおかずを調整したり、肉、魚、野菜をバランス良く献立に入れるように心掛けている。水分摂取量の少ない方へは、好みの物等を提供したりと、摂取量の増加を目指し、工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殺菌作用を目的に、うがいにお茶を使用し、食後の口腔ケアで義歯洗浄剤も使用している。声掛け誘導し、個々に応じた支援を行い、口腔内が清潔に保てるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、時間毎の声掛けや、本人の様子から兆候があればトイレ誘導を行っている。体調に応じ、パットと布パンツを主として使用し、居室の個人用トイレにてゆっくり排泄できるように促している。	排泄つチェック表を利用し、利用者の排泄つパターンを把握している。適切な個別誘導を行い、トイレで排泄つできるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーション内で、体操やゲームを取り入れ、体を動かし、職員の立てる献立には食物繊維を多く含む食材を使用するよう配慮している。排便状況も個々にチェック、記録し、必要時は主治医への相談を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	居室に個人用の浴室が設けられており、ゆっくりと入浴する事ができている。プライバシーの保護も保たれ、安全な介助の観点から曜日、時間帯は決まっているものの、好みの入浴剤を使用する等、家庭的な雰囲気での入浴が可能。	利用者のこれまでの生活習慣や好みなど、個別に入浴を支援している。入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応を工夫して支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の使い慣れた布団類をご家族に持参して頂き、定期的に洗濯、清潔な物で休めるように支援している。体調、気分に応じ常に自室で休息が取れるよう、居室の空調管理をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋はケース記録に綴じ、変更があれば必ず申し送りに記載、全職員が確認、把握している。症状に異変が見られた時点で主治医に報告、相談、指示を受ける体制を取っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒習慣のある方には、適度な量の酒の提供をしたり、職員と談笑しながら料理や清掃等の作業に参加してもらっている。編み物等の趣味活動を続けられるように支援もしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調を考慮し、近隣への散歩や車で的外出支援を行っている。桜の季節には桜並木へドライブも実施。帰宅願望が強い場合はご家族と連携し、外出の協力が得られるような働き掛けをする事もある。	外庭での外気浴、近隣の散歩やドライブなど、特別な外出支援にも柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1号館		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行っており、買い物時は個々の預かり金から職員が支払いをしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	正月や誕生日の特別な日等、本人が希望する場合は賀状を作成したり、電話にて連絡を取る等の支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に応じた壁画、ご利用者の作品や写真を貼り、季節感が得られるようにしている。		玄関には季節の花が飾られている。食堂兼居間は換気が行われ、臭気や空気のおよみが無い。壁には適切な大きさの時計と暦が利用者にとって見やすい位置に設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの談笑が多いが、廊下のソファにて気の合う方同士で語ったり、1人で過ごしたい場合は、いつでも自室にてゆっくり過ごせるように支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや布団、たんす等、慣れ親しんでいた物をご家族に持参してもらい、ご本人に職員やご家族を交えて相談の上、居心地の良い環境作りに努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等個人の物であると認識出来ており、排泄時にはホールからでも自室に戻って用を足す事が出来ている。			